

「ローマ教会訪問の願い」

2018年08月22日

ローマの信徒への手紙 1章8節～15節 まず初めに、イエス・キリストを通して、あなたがた一同についてわたしの神に感謝します。あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです。わたしは、御子の福音を宣べ伝えながら心から神に仕えています。その神が証ししてくださることですが、わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています。あなたがたにぜひ会いたいのは、“霊”の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。あなたがたのところ、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいのです。兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。ほかの異邦人のところと同じく、あなたがたのところでも何か実りを得たいと望んで、何回もそちらに行こうと企てながら、今日まで妨げられているのです。わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。

主イエスの十字架と復活、聖霊降臨によるエルサレム教会の誕生は紀元30年代の初めである。その四半世紀後、ローマ帝国の都・ローマにはキリスト信者たちが集まって教会を作り、交わりと宣教に励んでいた。教会は、驚くような伝播力で帝国内に広がっていたのである。パウロは、ユダヤ教イエス派の枠を乗り越え、異邦人社会に向けて、全力で宣教していた。パウロは、当時の大都市を転々と巡りながら宣教旅行をしている。そのパウロが、時の都・ローマに行きたいと思ったのは当然であろう。上記の御言葉は、パウロのローマ行きの願望を如実に著している。

パウロは、「まず初めに、イエス・キリストを通して、あなたがた一同についてわたしの神に感謝します。あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです」と、あなたがたの御子イエスへの信仰が世界の中心であるローマで言い伝えられ、そこから世界に広がっていることを神に感謝すると述べている。御子イエスの福音を宣べ伝え、心から神に仕えているパウロにとって、福音が世界中に言い伝えられることは、何よりの喜びであった。そして、「その神が証ししてくださることですが」と言い、パウロは祈る時はいつも、ローマ教会のことを思い起こし、神の御心によって、何とかしてローマ教会に行ける機会があるように願っていた。祈りによって共にあることを伝えている。

ローマ教会行きを願うのは、「あなたがたにぜひ会いたいのは、“霊”の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。あなたがたのところ、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいのです」と言っている。「兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。」私は、異邦人の所に行き、福音を宣べ伝えて、実りを得てきた。ローマにも行って、宣教の実りを得たいと、何度もローマ教会行きを企ててきたが、妨げられていた。

パウロは、“霊”の賜物を分け与え、ローマ教会と信仰により互いに励まし合いたいと願っている。また、「わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです」と言っている。全ての異邦人に福音を告げ知らせることが喜びであり、生きがいでと語り、宣教に燃えるパウロの真意が綴られている。